

名張市
総合計画

2004～2015

理想郷プラン

【概要版】



【総合計画とは】

総合計画は、名張市の最も基本となる計画であり、さまざまな分野別の計画や施策の基本的な指針としての役割を持つものです。

【計画の構成と期間】

- 基本構想（12年間） 2004（平成16年）年度～2015（平成27年）年度
- 前期基本計画（6年間） 2004（平成16年）年度～2009（平成21年）年度
- 実施計画

3年を単位として策定し、行政評価制度により適確な進行管理を行います。

ごあいさつ

名張市は、本年3月に市制施行50周年を迎えました。市制発足当時3万1千人であった人口は、大規模住宅地の開発等により急増し、それに対応すべく福祉施設や教育施設、幹線道路網、市立病院、下水道などの社会資本の整備を進め、現在では8万5千人の人口を擁する三重県西部の主要都市へと発展してきました。

しかし、21世紀を迎えて、私たちは時代の大きな転換点に立っています。情報化と国際化によるボーダレス社会の進展、地球環境問題の深刻化、また、わが国では急激な少子高齢化の進展と人口減少社会の到来、さらには人々の価値観やライフスタイルの多様化、国、地方を通じた危機的な財政状況等々、これまでの社会の前提となっていたさまざまなシステムが大きく揺らいでいます。また、これまで日本の成長を支えてきた中央集権システムが崩壊し、地方分権、地方の自立への流れが加速しています。

このように大きく時代が転換するなか、また、市制施行から半世紀という大きな節目を迎えて、この度、新しい総合計画「理想郷プ

ラン」を策定しました。計画では自立し、持続可能な自治体を目指し、名張市の様々な地域資源や個性を生かしながら、将来像に掲げる「豊かな自然と文化に包まれ、誰もがいきいきと輝いて幸せに暮らすまち」の実現に向けたまちづくりに取り組んでいくこととしています。

計画の推進にあたっては、「新しい公」を確立すること、すなわち市民と行政が役割分担を明確にしたうえで、信頼関係に基づき力を合せて取り組んでいくことが重要であります。引き続き、市民の皆さまの一層のご理解と、ご協力をお願いいたします。

最後に、この計画の策定にあたり、ご尽力を賜りました市議会をはじめ総合計画審議会委員各位、貴重なご意見をいただきました市民の皆さま、関係者の方々に心から感謝を申し上げます。



名張市長 亀井利克

もくじ

計画策定の背景	2	地域づくり戦略	8
まちづくりの基本理念	3	都市空間形成の方向	9-10
将来都市像とまちづくりの基本的な方向	4	政策の大綱	11-12
まちづくりの戦略	5-7	施策の展開方向	13-17
戦略の視点	5	施策目標（前期基本計画）	18-20
リーディングプラン	6-7	ライフステージでみる施策の概要	21-22

計画策定の背景

社会潮流

- 人口減少、少子高齢社会の到来
- 成熟社会への移行
- 価値観・生活様式の多様化
- 地球環境問題の深刻化
- ボーダーレス社会の進展
- 地方分権社会の進展と自治体間競争の時代

広域的視点からみた名張

- 中部と関西の結節点
- 伊賀市（予定）との連携
- 県境を越えた広域連携の核

名張の可能性

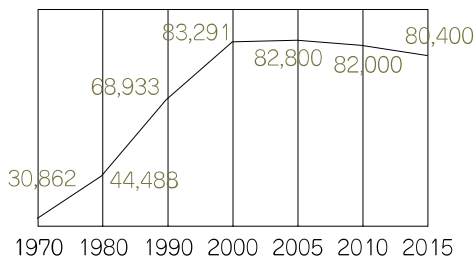
- 豊かな自然と田園環境
- 古来からの歴史と文化
- 多彩な人材に恵まれた住宅都市
- 特徴ある地域が分散する地域構造
- ふるさとへの愛着と誇りをもった自主自立のまち

市民意識

- 住みごころ→8割以上が肯定的
- 住み続けたい
→86.5%の市民が住み続けたい
- 将来の都市のイメージ
→「医療機関・保健福祉施設の充実したまち」
「生活環境が整備された住宅中心のまち」
「自然や田園に富んだまち」
- 現状に対する満足
→自然の多さ、買い物の便利さ
- 現状に対する不満
→歩行者等の道路通行の安全性
街路灯など防犯対策
働く場所や就業機会
- 市民活動への参加意向
→ほぼ9割が参加希望
- 農作物づくりへの関心
→非農家の7割が農作物づくりに関心がある

人口

2015年 総人口（中位推計）80,400人



まちづくりの基本的な課題

- ◆質の高い暮らしの創造
- ◆地域個性を生かしたまちづくり
- ◆少子・高齢化への対応
- ◆若者の定住と、
新しい市民を迎えるまちづくり
- ◆多様な地域連携と交流の促進
- ◆住民主体のまちづくり
- ◆新しい時代の行財政運営

まちづくりの重点的な課題

- ◆豊かな人材が生涯にわたり
活躍し続ける社会
- ◆名張ならではの
潤いある暮らしの創造
- ◆自治体間競争を生き抜く
戦略的な地域経営

まちづくりの基本理念

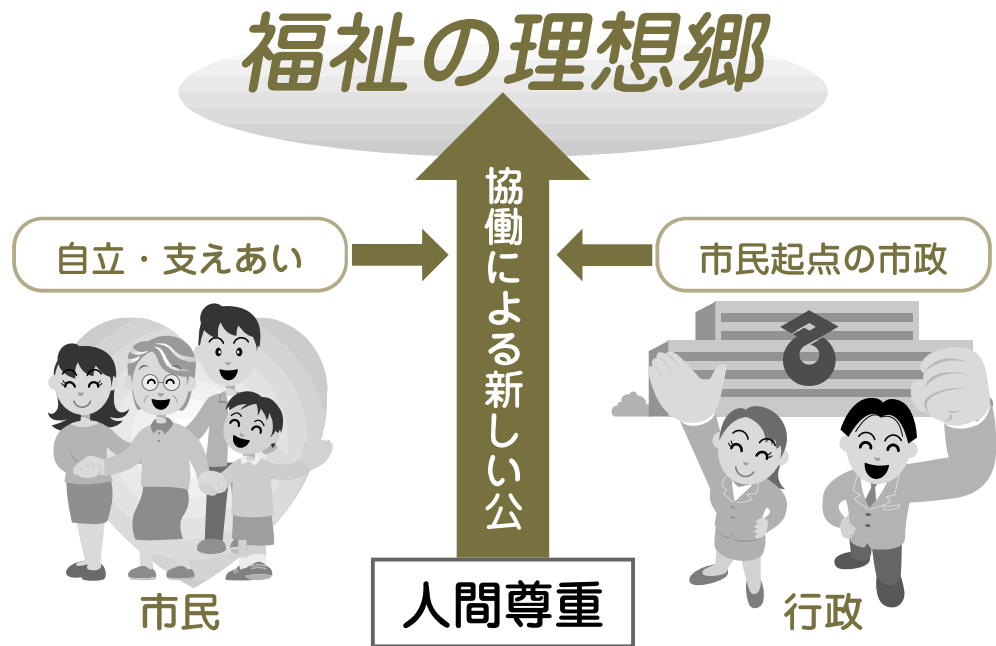
人間尊重を原点に、自立と支えあいで作る福祉の理想郷

「人間尊重」をまちづくりの原点に据え、市民の一人ひとりの自立を基本に、生涯を通して自らの夢に挑戦しながら生きがいを持って暮らすとともに、相互に多様な価値観や個性を尊重しあい、支えあうことで信頼と安心に満ちた地域社会の創造を目指します。

また、行政は「市民の幸せ」をすべての基準とする市民起点の市政を進め、市民と行政がお互いの役割と責任を自覚しながら「新しい公」(※)を確立し、力を合せて心豊かで質の高い地域社会を築き上げるために、まちづくりの基本理念を、

「人間尊重を原点に、自立と支えあいで作る福祉の理想郷」

とします。



※「福祉の理想郷」の福祉とは、広義の福祉、すなわち幸せを意味しています。市民の幸せの基準が「物の豊かさから心の豊かさ」へ、また「よりよく生きる」ことへと大きく変化している今、改めて「市民の幸せの追求」をまちづくりの理念に掲げ、理想郷(理想のふるさと)の実現を目指します。

※「新しい公」とは、市民や市民団体、企業など多様な主体が社会の担い手として「公」の活動に積極的に参加し、行政と市民等がお互いの役割と責任を自覚しながら、パートナーシップのもと力を合せてまちづくりに取り組む新しい市民社会を指します。

将来都市像とまちづくりの基本的な方向

将来都市像

名張市は、市外から多くの市民を迎え続けながら発展し、市民の定住意向も非常に高い生活都市（暮らしのまち）です。

この最大の地域個性である『暮らしのまち』を視点に、恵まれた水と緑の自然環境や、先人が築いてきた豊かな歴史・文化、蓄積してきたさまざまな都市機能などを大切に生かし、名張の最大の財産である市民一人ひとりが、

豊かな自然と文化に包まれ、
誰もがいきいきと輝いて、
幸せに暮らすまち

自立と参加を基本に、地域社会のなかで心豊かに交流し、支えあいながら、生きがいを持って暮らし続けていくことで、誰もが真の幸せを実感できるまちの創造を目指します。

まちづくりの基本方向

〈基本理念〉

人間尊重を原点に、自立と
支えあいで作る福祉の理想郷

〈将来都市像〉

豊かな自然と文化に包まれ、誰もが
いきいきと輝いて、幸せに暮らすまち

〈暮らしの関わり〉



人



自然



文化

〈まちづくりのキーワード〉 . . . 〈共助〉

〈共生〉

〈共創〉

〈まちづくりの
基本方向〉

ふれあいと共助で築く、
すこやか生活都市

人と自然が共生する、
うるおい生活都市

まちと文化を共に創る、
いきいき生活都市

◆ ふれあいと共助で築く、すこやか生活都市

誰もが人間として尊重され、自由に社会参加しながら、いきいきと暮らし続けることができるよう、共に助けあい、支えあふれあい豊かな地域社会づくりを進め、自立を基本に、ふれあいと共助で築く「すこやか生活都市」の創造を目指します。

◆ 人と自然が共生する、うるおい生活都市

名張の財産である豊かな水と緑の環境を守り育て、身近な自然とのふれあいのなかで地域の豊かさが実感できる、潤いのある市民生活を実現するとともに、地球環境にやさしい資源循環型システムを構築するなど、人と自然が共生する「うるおい生活都市」の創造を目指します。

◆ まちと文化を共に創る、いきいき生活都市

さまざまな都市機能の有効活用を進めるとともに、地域個性を生かしつつ、安全で快適に暮らせる生活環境と活力ある地域社会づくりを進めます。また、豊かな歴史・文化資産やさまざまな暮らしのなかの文化を保存、活用するとともに、人々の多様な交流のなかから新しい文化を育てるなど、まちと文化を共に創る「いきいき生活都市」の創造を目指します。

まちづくりの戦略

将来都市像を効果的に実現するために、次の視点に基づき、名張市独自の地域個性と資源を最大限活用しながら、独自の地域戦略を構築し、リーディングプランとして重点的な取組みを進めます。

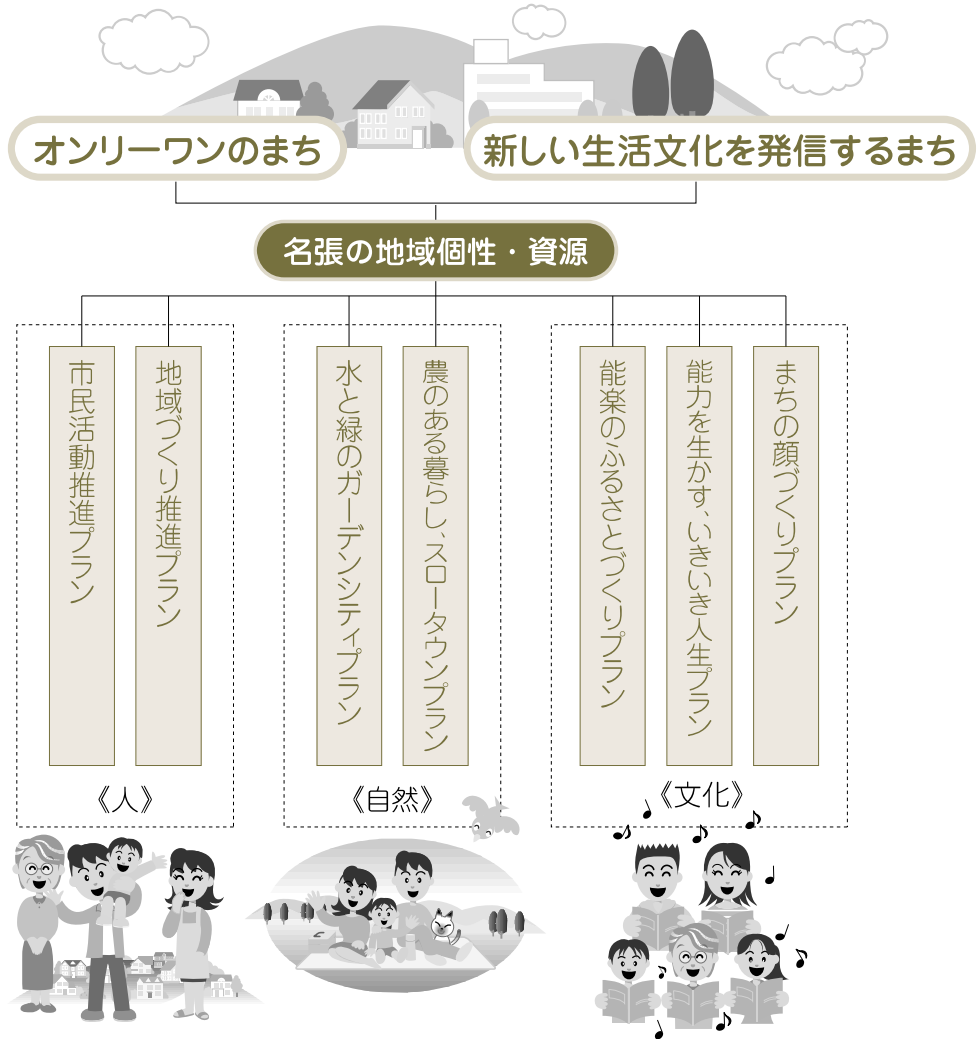
戦略の視点

●オンリーワンのまち

「暮らしのまち（生活都市）」を磨きその質を高めていくことを基本に、さまざまな地域資源を最大限に活用しながら、個性的で他にはない、誇りの持てるふるさと「オンリーワンのまち」を創造します。

●新しい生活文化を発信するまち

スピードと効率をもたらす価値を尊重しながら、「スロー」というもう一つの価値観を取り入れることにより、真に心地よいと感じる日々の過ごし方や、手間ひまをかけることで得られる満足感や充実感など、「新しい生活文化」を発信します。



《 市民活動推進プラン 》

- NPOやボランティアなどの市民活動に対する情報提供や支援の仕組みづくりを行います。
- 皇學館大学社会福祉学部などと共同で研究を進めるとともに、さまざまな主体が多様なサービス提供を担う仕組みを構築し、地域福祉の充実に取り組みます。
- 市民活動のネットワーク化や、市民活動支援センター機能の充実を図ります。
- 地域通貨や時間預託（タイムダラー）制度の導入などを進めます。

《 地域づくり推進プラン 》

- 地域づくりの活動に対して、地域予算制度など資金面での支援制度や人的支援の充実、情報提供、人材育成などを進めます。
- 地域ぐるみで次代を担う人づくりや子育て環境の整備など地域課題に協力して取り組むとともに、地域で支えあう共助の仕組みづくりに取り組みます。
- 地域ビジョン（構想）の策定を進めるとともに、可能な限り行政計画に反映する仕組みを構築します。
- 公共施設の有効活用を図るとともに、施設の管理や行政事務などについて、地域への委託（移譲）を進めます。
- 各地域間の交流やネットワーク化を促進します。

《 水と緑のガーデンシティプラン 》

- 名張川と多くの支流を、市民生活に潤いと安らぎを与える貴重な資源として、水辺環境の保全と活用を図ります。
- 赤目四十八滝や青蓮寺湖、ひなち湖の周辺を人々の交流や憩いの場として整備します。
- 森林の適正管理や広葉樹林への転換を促進します。
- 市民の森林ボランティア活動など新しい森林管理の仕組みづくりに取り組み、森林資源の活用を進めます。
- 園芸福祉の普及を促進し、空き地や公園などの緑化運動、花いっぱい運動などを展開します。

《 農のある暮らし、スロータウンプラン 》

- 都市と農山村を多様に結びつけ、多彩な農の担い手の育成するとともに、新しい「なばり農業」を展開します。
- 市民農園の拡充や水田の里親制度、援農ボランティアなど市街地に住む市民と農家が豊かに交流する仕組みづくりを進めます。
- 新鮮で安全・安心な地元の農産物を市民が身近に消費できるよう農産物直売所の設置、学校給食への地元食材の利用拡大や食育の推進、食材の安全性に関する情報提供などを進めます。
- 生ごみの堆肥化などによる循環型農業を推進します。
- アグリパーク（農業公園）の整備に取り組みます。

《 能楽のふるさとづくりプラン 》

- 能楽を市民の誇りにできるよう、名張新能・能楽教室の開催、創作狂言など名張独自の能文化の振興や学校教育における能楽の体験学習などを進めます。
- 能楽に関する市町村との交流・ネットワーク化を図り、共同してその歴史・文化を全国に発信します。
- 市内に点在する歴史・文化資産や赤目四十八滝に代表される自然資源を活用し、

ネットワーク化やモデルコースの設定などを進めます。

- 人々を温かくもてなすとともに、地域を誇り、広めるふるさとガイド（語り部）を育成します。
- 名張らしい歴史・文化や、地域に根ざした伝統文化を継承・発展させ、魅力あるまちと誇りの持てるふるさとづくりに取り組みます。

《 能力を生かす、いきいき人生プラン 》

- すべての市民がいつでも、どこでも、楽しく学べるよう生涯学習の機会の拡大や学習情報を充実します。
- 皇學館大学社会福祉学部などとの連携によるリカレント教育を実施するなど、実務教育を充実します。
- 一人ひとりの能力などが、社会のなかで

十分発揮されるよう、人材バンクやマイスター登録制度など、人材活用の仕組みづくりに取り組みます。

- 高齢者が豊かな知識や経験を生かし、健康で生きがいを持って暮らし続けることができるよう、地域のなかで世代を超えて交流ができる環境づくりを進めます。

《 まちの顔づくりプラン 》

- まちの顔として、中心市街地の利便性や魅力を高めるとともに、活気とにぎわいを再生する取組みを進めます。
- 名張駅周辺の交通機能や都市サービス機能の充実を図るとともに、シンボル性の高い都市空間を創造します。
- 既成市街地の歴史・文化資源のネットワーク化や、景観資源として築瀬水路の活用、まち並みの修景などを進め、文化の薫りを生かした集客交流を目指します。また、商業の振興や福祉の充実など生活環境の充実を図り、高齢者をはじめ誰もが暮らしやすいまちづくりに、取り組みます。

- 鴻之台地区と中央西（仮称）地区を広域的な行政、業務、情報交流の拠点として位置づけ、機能的で質の高い都市空間の形成を目指します。



地域づくり戦略

将来都市像を実現するため、目指すべき都市構造を踏まえながら、広域的な視点と身近な狭域的な視点から、「自立」と「連携」による豊かな生活空間の創造を目指します。

広域的な交流・連携ネットワークの創造

名張市は、近畿圏と中部圏の結節点に位置することから、古くから関西を中心に多様な交流が行われてきました。こうした地域特性や潜在的な可能性を生かし、積極的な交流、連携を進めます。

●伊賀地域のレベルアップを目指す

伊賀地域における一体的な地域戦略を構築し、それぞれの地域個性や特色を生かしながら、切磋琢磨することで伊賀地域全体の向上・発展を目指し、全国に発信します。

●県境を越える一体的な生活圏の創造

日常生活圏の広がりに対応して、県境を越えた東大和地域等との連携や情報交流を進め、相互補完による豊かな生活空間と広がりのある地域づくりを目指します。

●圏際から圏央へ

～近畿と中部を結ぶ

広域交流・連携ネットワークの形成～

中部圏と近畿圏を結ぶ結節点としての特性を生かし、多様な分野における連携・交流を進めるとともに、近畿、中部の圏央として新たな発展を目指します。

住民主体の地域づくりと地域間ネットワークの創造（狭域のまちづくり）

市内の各地域が自立を基本に、地域資源や特性を生かした個性ある取組みを進めるとともに、地域間の連携によって、相互に補完しながら、開かれた豊かな生活空間を創造します。

●個性が輝く地域づくり

14地区を単位として、リーディングプランに掲げた「地域づくり推進プラン」により、地域づくりを重点的に推進します。また、地域特性を生かした個性ある取り組みが行われるよう、住民が主体となった地域ビジョンの策定を促進し、行政計画に反映します。

●相互発展を目指す「地域間ネットワーク」づくり

それぞれの地域が持つ特性や機能を結ぶネットワークを形成し、多様なニーズに対応した拠点性の高いサービスや地域資源などを地域間で相互に補完しつつ、共同利用を進めるなど地域間の交流、連携による広がりのある生活空間づくりを進めます。

都市空間形成の方向

目指すべき都市構造

暮らし広がる連携型都市構造の形成

名張固有の地理的、自然的特性を基礎として、の都市構造への転換を進め、魅力ある都市空間を創造します。
「拠点」、「軸」及び「空間」づくりを進めることにより、分散型の都市構造から連携型

●地域特性に応じた多様な拠点づくり

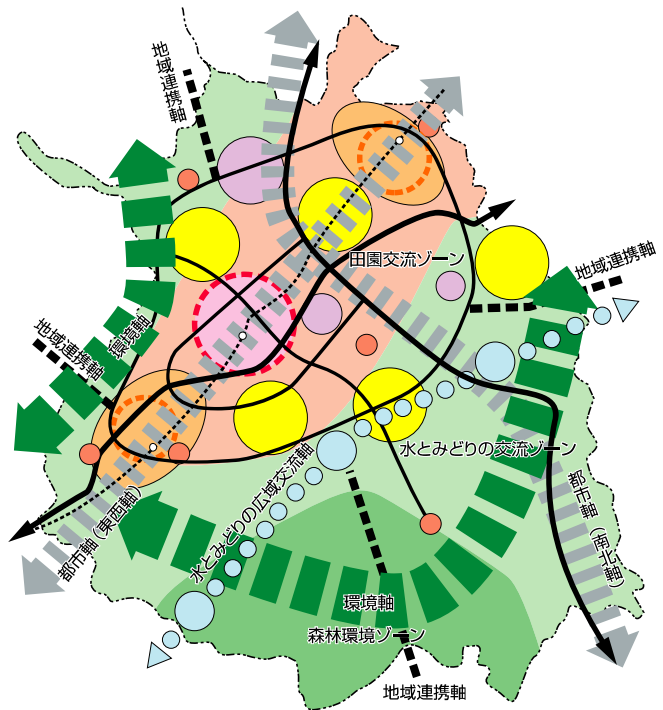
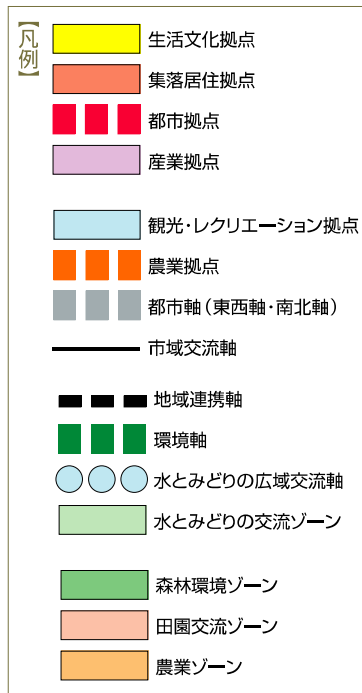
市街地や集落地域など、それぞれの地域個性が輝く、誇りの持てる多様な拠点づくりを進めます。

●地域連携を促進する重層的なネットワーク（軸）づくり

中心市街地を核として、多様な拠点を結びつけ、地域間の機能分担と相互補完による重層的なネットワークを創造します。

●広がりのある魅力的な空間づくり

身近に豊かな自然とふれあうことのできるゆとりのある都市環境や都市的サービスを享受できる集落地域の整備によって、広がりのある魅力的な都市空間を創造します。



土地利用の方針

土地利用の基本方針

- 自然と人が共生する計画的な土地利用
- まちと自然が調和する質の高い土地利用
- 人と人、地域と地域の交流が広がるきめ細かな土地利用

土地利用の基本方向

市域を三つのゾーンに区分し、それぞれのゾーンが持つ特性を生かしながら、計画的で質の高い土地利用を図ります。

●市街地ゾーン

都市的な土地利用を図ることにより、名張市の顔となる魅力ある中心市街地の再生・整備や、住宅地の潤いのある住環境の保全・整備、名張らしさを大切にした快適で質の高い都市空間を創造します。

●緑の共生ゾーン

市街化を抑制し、農林業の振興を図るとともに、多様な地域間交流を促進し、自然と人が豊かにふれあう、ゆとりと安らぎに満ちた空間を創造します。

●自然保全ゾーン

自然的属性や環境上の観点から森林の適正な育成、管理を進め、自然環境を積極的に保全します。

